

漢語サセル動詞に関する一考察

山田 一美・山田 勇人

Chinese-loan-word SASERU Verb and Its Status

Kazumi Yamada, Hayato Yamada

抄 録

日本語の漢語動詞には一つの形で自動詞・他動詞の両方の働きを有する動詞、いわゆる自他同形動詞が非常に多い。しかし、これら自他同形の漢語動詞はその形で他動詞の働きを有していながら、あえて「～させる」という形で、他動詞文を形成する場合もある。

本稿では、自他同形の漢語動詞の他動詞文において「～する」ではなく「～させる」が用いられる要因について、実例をもとに調査・考察を行った。その結果、「～させる」が用いられるのは、①自動詞よりの自他同形の漢語動詞が他動詞として用いられる場合 ②無生物主語の他動詞文の場合 ③修飾関係をはっきり示す場合 ④動作に意志性を持たせる場合 ⑤ヲ格がはっきり明示されていない場合、の5つの場合であることが分かった。

キーワード：漢語、自他動詞、自他同形動詞

(2009年10月2日受理)

Abstract

Japanese is a language having many Chinese-loan-word verbs which can operate as both intransitive and transitive verbs, without changing their form. However, those Chinese-loan-word verbs sometimes change their form by attaching SASERU to create sentences with transitive verbs, even though those Chinese-loan-word verbs could operate as transitive verbs without changing their form. In this paper, we shall discuss what causes such an effect where not Chinese-loan-word SURU verbs, but Chinese-loan-word SASERU verbs should be used. As a result, it will be found that Chinese-loan-word SASERU verbs should be used in situations where 1) intransitive-Chinese-loan-word verbs having identical form in intransitive and transitive uses are used as transitive verbs 2) the subjects are inanimate in the sentence containing transitive verbs 3) we need to clarify the relationship between modifiers and the words being modified 4) we make actions have a kind of will 5) we need to clarify that the sentence is a sentence having a transitive verb; this is because the sentence has no object with *o*-case.

Key word : Chinese-loan-word, in/transitive verbs, verbs operating as both in/transitive verbs

(Received October 2, 2009)

1. はじめに

日本語の漢語動詞には一つの形で自動詞・他動詞の両方の働きを有する動詞、いわゆる自他同形動詞が多く存在する¹⁾。しかし、自他同形の漢語動詞の中には、その形で他動詞文を形成することができながら、あえて「～させる」という形を用いる場合もある。「論文を完成する」「論文を完成させる」はその例である（以下、この他動詞の形をそれぞれ、「漢語スル動詞」「漢語サセル動詞」と呼ぶことにする。）。この2つの形は、意味的にあまり差異がなく、また言い換えが可能な場合も多い。しかしながら、ある特定の状況においては、使い分けがされており、漢語スル動詞ではなく、必ず漢語サセル動詞が使われる場合が見られる。

日本語教育の現場では、教師が学習者の作文を添削する際、ネイティブ的な感覚に頼って、学習者のスルの形の使用をサセルに訂正（あるいはその反対）をしている。しかし、教室内での自他同形漢語動詞におけるスル・サセルの使い分けについては、自他同形漢語動詞が存在することを提示するだけにとどめ、その明確な使い分けについては指導されていない。

自他同形であれば、なぜスルの他にサセルの形も存在するのだろうか。日本語学的な見地からだけではなく、教育的観点からも、漢語サセル動詞の使用環境を探ることは有意義と言える。本稿では、インターネット検索による実例（調査期間：2004年～2005年）を基に、漢語サセル動詞が使われる要因について、現代日本語を対象とした考察を行う。また、漢語サセル動詞の働きは何かという点についても探っていきたい。

2. 自他同形の漢語動詞

2.1 自他同形漢語動詞のタイプ

筆者らはまず自他同形の漢語動詞に関して、それぞれの語が自動詞、他動詞のどちらの意味で多く使用されているかを、その実際の使用頻度²⁾を調査した。この結果、自他同形の漢語動詞は語によって、自動詞として、または他動詞として使用される頻度に大きな違いがあることが分かった。筆者らはこの使用頻度の違いから、自他同形の漢語動詞を以下の3つに分類した³⁾。（表1参照）。

- i . 自動詞としてよく使われるもの（自動詞よりのもの）
- ii . 他動詞としてよく使われるもの（他動詞よりのもの）
- iii . 自他の使用頻度に違いがあまりみられないもの（中立のもの）

そして、漢語動詞にはこの3タイプと④自動詞としてのみ使われる漢語動詞⑤他動詞としてのみ使われる漢語動詞を加えた計5つのタイプがあると筆者らは考える。

(表1) 使用頻度から見た自他同形の漢語動詞

自動詞として使われる場合が多いもの (自動詞よりの自他同形漢語動詞)	自動詞としても、他動詞としてもよく使われるもの (中立的な自他同形漢語動詞)	他動詞として使われる場合が多いもの (他動詞よりの自他同形漢語動詞)
全滅する	開店する	実現する
完成する	変形する	汚染する
一変する		蓄積する
閉店する		併発する
消失する		分散する
復活する		喪失する
普及する		撲滅する
発展する		停止する
倒産する		加速する
爆発する		焼失する

2.2 「漢語スル動詞」か「漢語サセル動詞」か

自他同形の漢語動詞の他動詞文において、漢語スル動詞が用いられる場合と漢語サセル動詞が用いられる場合があることはすでに述べた。では、実際の用例では、どちらの形がよく使われているのか、その使用頻度についても調査を行った。

調査方法は、例えば、「完成する」であれば、漢語スル動詞の文である「～を完成する」と漢語サセル動詞の文である「～を完成させる」をインターネット検索し、その実際の用例ではどちらの形がよく使われているのか用例数を調べた。

この結果、他動詞文においてどちらがよく使われるかは、語によって異なり、①漢語スル動詞で他動詞文を形成する場合が多いもの、②漢語サセル動詞で他動詞文を形成する場合が多いもの、に分類されることが分かった(表2参照)。

(表2) 用例から見る漢語スル動詞・漢語サセル動詞

漢語スル動詞がよく使われるもの (「～する」の形で他動詞文を形成)		漢語サセル動詞がよく使われるもの (「～させる」の形で他動詞文を形成)	
実現する	紛失する	全滅する	復活する
汚染する	喪失する	完成する	爆発する
開店する	消失する	一変する	普及する
閉店する	焼失する	発展する	
変形する	撲滅する	分散する	
蓄積する	停止する	倒産する	
併発する	加速する	爆発する	

そして、表1と表2の結果を合わせたものが表3である。この結果から次のことが言える。

自他同形の漢語動詞において、自動詞よりのものが他動詞文を形成する場合、「させる」の形(漢語サセル動詞)が用いられるものが多く(<B群>参照)、「する」の形(漢語ス

ル動詞)はあまり用いられないものが多い(<A群>参照)。逆に他動詞よりものは「する」の形(漢語スル動詞)が用いられ(<C群>参照)、「させる」の形はあまり用いられないものが多い(<D群>参照)。

これは、自動詞よりのものは、自動詞的要素が強いため「する」の形より、「させる」の形でより明白に他動詞であることを示す必要があると考えられるためである。また、他動詞よりのものは、他動詞的要素が高く、あえて「させる」の形で他動詞であることを示す必要がないためだと考えられる。

(表3)

表1 参照	自動詞よりの自他同形漢語動詞 (「～する」の形で自動詞を表す 場合が多いもの)		他動詞よりの自他同形漢語動詞 (「～する」の形で他動詞を表す 場合が多いもの)	
表2 参照	漢語スル動詞 (「～する」の形) で他動詞を表す場 合が多いもの	漢語サセル動詞 (「～させる」の形) で他動詞を表す場 合が多いもの	漢語スル動詞 (「～する」の形) で他動詞を表す場 合が多いもの	漢語サセル動詞 (「～させる」の形) で他動詞を表す場 合が多いもの
タイプ	A群	B群	C群	D群
例	閉店する 消失する	全滅する 完成する 一変する 爆発する 復活する 普及する 発展する 倒産する	実現する 汚染する 蓄積する 併発する 撲滅する 喪失する 停止する 加速する 紛失する 焼失する	分散する

以上のことから、自他同形の漢語動詞における自動詞・他動詞としての使用頻度の違いが、漢語サセル動詞が用いられる要因のひとつであることが分かった⁴⁾。次のセクションからは、そのほかの要因について、表3におけるC群に属する動詞に焦点を置きながら考察していく。

3. 漢語サセル動詞が用いられる環境

上記で述べたように、自他同形の漢語動詞は一語で自動詞も他動詞も表すことができる。しかし、(ある場合において)「する」で他動詞を表さずにあえて「させる」の形、つまり漢語サセル動詞を用いて、他動詞を表す場合が他にもある。以下、実例をもとに漢語サセル動詞が用いられる場合を具体的に見ていきたい。

3.1 無生物主語の他動詞文の場合

「撲滅する」という漢語動詞は使用頻度から言えば他動詞よりの自他同形の漢語動詞である。よって、他動詞文は「撲滅する」の形で用いられる場合がほとんどであり、「撲滅させる」の形が用いられる場合は非常に少ない。(表3参照)。これは、2.2で説明したように、「撲滅する」が他動詞よりの自他同形の漢語動詞であるため、漢語サセル動詞を用いて、ことさら他動詞の意味を強調する必要がないためである。

しかし、漢語スル動詞で他動詞を表す場合が多い「撲滅する」であっても、用例(1)(2)のように漢語サセル動詞を用いる場合がある。

- (1) ワープロは和文タイプを撲滅させたし、ビデオカメラは8mmカメラを絶滅に追いやった。

(http://homepage1.nifty.com/sunshine/_private/DataCommunication/390.htm)

- (2) 分子生物学は生氣論を撲滅させたのか。

(<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/ranking/radoublehelix.html>)

主語が無生物である場合、「撲滅する」のような他動詞よりの語であっても漢語サセル動詞が用いられる傾向が見られる。これは主語が無生物の場合、「～する」の形であると、無生物も主語になる場合が多い自動詞文と混同しやすい。そして、この混同を防ぐために無生物が主語の場合は漢語スル動詞を用いず、漢語サセル動詞が用いられると考えられる。

用例(3)の「併発する」、(4)の「実現する」も用例(1)(2)と同様に、他動詞よりの語だが、主語が無生物であるために漢語サセル動詞が用いられている例である。

- (3) 同氏はさらにIMFの政策はアジア金融危機の加害者であり、ロシア・南米の金融危機を併発させたと指摘。

(<http://www.jca.apc.org/attac-jp/ATTACNewsletter/169.html>)

- (4) NASAは、民間の懸賞コンテスト『アンサリXプライズ』が昨年、史上初の民間宇宙飛行を実現させたように、このプログラムが技術革新の意欲を刺激することを期待している。

(<http://hotwired.goo.ne.jp/news/technology/story/20050523303.html>)

逆に、「撲滅する」と漢語スル動詞で他動詞文を表している場合は、用例(5)(6)のように主語が有情物の場合が多い。

- (5) 現長野市に生まれた宮入氏は1913年、この寄生虫が特定の貝の中で成長すること

を発見。(宮入氏は)「ミヤイリガイ」と名付けられた貝を撲滅することで、体内に侵入する成虫になることを防げることを突き止めた。

(<http://mytown.asahi.com/nagano/news01.asp?c=15&kiji=34>)

(6) 米ロックスター、レニー・クラヴィッツが19日、5000ドル相当の電気ギターをブラジルのルラ大統領に進呈した。2006年までにブラジルの貧困を撲滅する運動に取り組む同大統領に対して、資金調達を支援するのが目的。

(<http://daimyouzin.blog.ocn.ne.jp/daimyoup/2005/03/20/>)

もし、主語が有情物の場合に、漢語サセル動詞が用いられた場合、例文(7)(8)〔汚染する〕〔実現する〕も「撲滅する」と同様C群(表3)に属するように、更に他動性を強調した言い方になる。いわゆる強調構文でその行為者を強調している文(用例(7))や行為者が疑問詞となっている場合(用例(8))などに、「有情物主語+漢語させる動詞」という組合せがよく見られる。

(7) 構造汚染一史上最強の猛毒「ダイオキシン」に日本列島を汚染させたのは誰だ

(<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/481740437X>)

(8) 今まで、誰がそんなことを実現させたのだろうか。

(<http://k-free.com/lovedido/angel-4.html>)

3.2 修飾関係をはっきり示す場合

用例(9)では「実現させる」が使われているが、仮に「実現する」が使われた場合、その意味は曖昧になる。というのも、「実現する」が自動詞なのか他動詞なのかで、二つの解釈が可能になるからである。例えば、(9a)では、「自身が」は「強調する」の主語になり、「自身」はキャンプデービッド合意の実現には関与していないという意味になる。ところが、(9b)では「自身が」が「実現する」の主語であり、キャンプデービッド合意の実現に関与したという意味になる。

(9) (カーター元大統領は) 大統領時代に和平に取り組んだ中東紛争については、自身が1978年に実現させたキャンプデービッド合意の重要性を強調し、イスラエルとパレスチナ双方に自制を求めた。

(http://homepage.mac.com/ehara_gen/jealous_gay/new_world_order/30.html)

- a. 自身が(1978年に実現した) キャンプデービッド合意の重要性を強調
- b. (自身が1978年に実現した) キャンプデービッド合意の重要性を強調

このような修飾関係の曖昧さによる意味の混乱を防ぐために、用例 (9) ではあえて「実現させる」を用いている。そして、「実現する」が他動詞であることをはっきりさせることによって、文の意味を確かなものになっている例である。このように修飾関係をはっきり示すために、あえて漢語サセル動詞が使われる場合もある。

3.3 動作に意志性を持たせる場合

「紛失する」「焼失する」という自他同形の漢語動詞は他動詞としての用いられた場合、その動作に主体の意志はない場合が多い動詞である。例えば、下記の例文において、「書類を紛失した」という動作に太郎の意志はない。「パスポートを焼失した」という動作にも花子の意志はない。

- ・ 太郎は大切な書類を紛失した。
- ・ 花子は火災でパスポートを焼失した。

他動詞のほとんどが意志動詞であることを考えれば、これらの動詞は特殊であると言える。このような自他同形の漢語動詞が通常、他動詞として使われる場合、漢語サセル動詞は用いられない場合が多い。

- (10) (私は) 先日マヌケなことに、眼鏡を**紛失**してしまったのだ。コンタクトレンズを**紛失する**というのは良くある話だが、眼鏡でも数万円の出費が必要である。
(<http://www2u.biglobe.ne.jp/~hi-ro7/04Zuisou/zui96.htm>)

- (11) (私は) まだ美しい自然の残る備前平野の真中に小作農家の七人兄弟の三男として生れ、小学校三年生の時、戦災で家財を**焼失**し貧しさのすべてをあげました。
(<http://www1.harenet.ne.jp/~tuta22/profile.html>)

漢語サセル動詞が用いられる場合も見られるが、それはその動作に意志性を持たせる場合である。漢語サセル動詞が用いられた以下の用例 (12) (13) では、「紛失する」「焼失する」という動作に主体の意志が存在する。それに対し漢語スル動詞が用いられた先の用例 (10) (11) では「そのつもりはなかったが、うっかり紛失してしまった」という意味であり、その動作に主体の意志は存在していない。

- (12) 攻撃者はこの脆弱性を利用して、ほかのユーザーの Office アプリケーションを異常終了させ、保存していないデータを**紛失させる**ことができます。
(<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/bulletin/ms02-002.msp>)

- (13) 焼夷弾攻撃は日本の家屋を**焼失させる**よう工夫されていました。焼夷弾は鉄製の

筒の中 にナパーム剤という油脂が詰められていて、引火すると燃え上がるようになっていました。 (http://museum.city.fukuoka.jp/je/html/182/182_02.html)

そして、用例 (10) (11) を「紛失させる」「焼失させる」に言い換えることはできない。もし、言い換えた場合、これら動作に意志性が付加されてしまうからである。

(10)' ?? (私は) 先日マヌケなことに、眼鏡を**紛失させた**。

(11)' ?? (私は) 戦災で家財を**焼失させた**。

このように、その動作に主体の意志性のない自他同形の漢語動詞が「～させる」の形で文中に現れる場合、その動作は意志的なものとなる。つまり、その行為が意志的な動作であることを表す場合には漢語サセル動詞が用いられることを意味している。これは、漢語サセル動詞は他動詞性が強く、その働きによって主体意志を付加する、または、明白にしていると言える。

3.4 ヲ格がはっきり明示されていない場合

ヲ格が主題化していたり、ヲ格が省略されているためヲ格がはっきり明示されていない場合も漢語サセル動詞が用いられる。これはその文で使用される動詞が他動詞であることを示すヲ格がないため、その自他の判別が難しく、意味が曖昧になる恐れがあるためである。用例 (14) (15) はその例である。用例 (14) において、漢語スル動詞が用いられた場合「事故を撲滅する」という意志的なものではなく、「事故が撲滅する (ダロウ)」という意味の解釈も可能になる。また、(15) では直前でヲ格が省略されているため、サセル動詞が用いられている。

(14) 一人ひとりの安全意識と安全環境の整備、それぞれの責任施行体制をベースに、事故は起こり得ることを前提とした対策を講じることが不可欠だ。「事故は必ず**撲滅させる**」との重大な決意で、組合員の安全意識の高揚を徹底するとともに、会社側に万全な安全体制の確立を強く求める。

(http://www.ntt-union.or.jp/n_New/tokusyu/010908/undo.htm)

(15) ワイズ・ユーズ発起人である木材産業の広報担当者ロン・アーノルドは、「我々の目的は環境保護運動を粉碎し、**撲滅させる**ことだ。個人の利益のために環境を搾取するのは当然である」と豪語した。

(<http://pro.patagonia.com/japan/enviro/reports/crimes.shtml>)

このように、漢語サセル動詞を用いることによって他動詞であることをはっきりさせ、意味の曖昧さを防いでいる。

4. 漢語サセル動詞の働き

自他同形の漢語動詞の文において、漢語サセル動詞が用いられる場合について考察を行ってきたが、これらの結果から、漢語サセル動詞の働きについて一つの結論が導き出される。それは、漢語サセル動詞が「他動詞としての意味を強調する・明白に示す」場合に用いられているということである。自他同形の漢語動詞は、自動詞・他動詞両方の働きを持つゆえに、自他の意味を取り違える場合が多い。そのため、自他同形の漢語動詞の文においては、漢語サセル動詞を用いることによって、その自他の違いによる意味の曖昧さを回避するという理由があるようである。

5. まとめ

以上、漢語サセル動詞が用いられる場合は下記のようにまとめることができる。

- i 自動詞よりの自他同形の漢語動詞が他動詞として用いられる場合
- ii 無生物主語の他動詞文の場合
- iii 修飾関係をはっきり示す場合
- iv 動作に意志性を持たせる場合
- v ヲ格をはっきり明示されていない場合

そして、漢語サセル動詞には「他動詞としての意味を強調する・明白に示す」働きを持つということが言える。

注

- 1) 森田（1990）は漢語サ変動詞 573 語のうち、自他同形動詞は 274 語あるとしている。筆者らの調査では、辞書によって自他の判断が分かれているものが多くあった。例えば、「開店する」は①自他同形『明鏡国語辞典』②他動詞『岩波国語辞典第4版』③自動詞『角川新国語辞典』と全く異なる判断になっている。また、今回調査に用いた上記3つの辞書では、「撲滅する」は他動詞となっているが、用例（1）（2）のように自動詞としても使用されている例がある。
- 2) 調査方法は『動詞・形容詞問題語用例集』などから自他同形の漢語動詞を抜き出し、インターネットの検索機能 google を用いて、それらの漢語動詞が自・他動詞のどちらかで使われているか、その用例数によって自・他動詞よりかを判断した。その調査結果については添付資料1を参照されたい。
- 3) 小林（2000）は漢語動詞を①自動詞用法のみの漢語動詞②他動詞用法のみの漢語動詞③自動詞用法を基本とする自他両用の漢語動詞（自動詞的用法が典型であると認識されるもの）④他動詞用法を基本とする自他両用の漢語動詞（他動詞的用法が典型であると認識されるもの）の4つに分類し、自他同形の漢語動詞には2つのタイプ（③と④）があると述べている。
- 4) しかし、A群・D郡（表3）の漢語動詞のように例外もみられる。これは、これまで述べてきた

要因以外のことが影響していると考えられる。

参考文献

- 小林英樹(2000)「漢語動名詞の自他」『日本語教育』107、75-84
- 北原 保雄(2002)『明鏡国語辞典』大修館書店
- グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版、130-131
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版、第3章
- 西尾寅弥 宮島達夫(1971)『動詞・形容詞問題語用例集』国立国語研究所、秀英出版、162-188
- 西尾実、岩淵悦太郎、水谷静夫 編(1986)『岩波国語辞典第四版』岩波書店
- 二通信子、佐藤不二子(2003)『改定版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク、12
- 森田良行(1990)「自他同形動詞の諸問題」『早稲田国文学』
- 山田俊雄、吉川泰雄(1981)『角川新国語辞典』角川書店
- 山田勇人(2007)「主体意志のない他動詞文に関する一考察」日本語教育学会関西地区研究集会予稿集
- 吉川武時(1989)『日本語文法入門』アルク、192-193

(添付資料1)

動詞	①『明鏡国語辞典』	②『岩波国語辞典第4版』	③『角川新国語辞典』	がする 自動詞	を する 他動詞	を させる 他動詞
全滅する	(両)	(両)	(両)	10600	3630	16100
実現する	(両)	(両)	(両)	316000	2190000	220000
汚染する	(両)	(両)	(両)	739	33400	7280
開店する	(両)	(他)	(自)	8690	14800	2960
完成する	(両)	(両)	(両)	219000	48000	146000
一変する	(両)	(両)	(両)	30700	3780	21100
閉店する	(両)	(自)	(両)	10400	666	95
変形する	(両)	(両)	(両)	19800	10700	8280
蓄積する	(両)	(両)	(他)	20900	73700	3830
併発する	(両)	(両)	(両)	2520	36300	873
分散する	(両)	(自)	(両)	17000	34700	34000
紛失する	(両)	(両)	(両)	3720	7490	45
喪失する	(他)	(他)	(他)	5990	71800	7900
消失する	(両)	(自)	(自)	41100	3920	3480
焼失する	(両)	(両)	(両)	3510	632	92
撲滅する	(他)	(他)	(他)	3990	22900	11600
減少する	(他)	(両)	(両)	285000	20400	153000
復活する	(自)	(両)	(両)	112000	18800	113000
停止する	(他)	(両)	(両)	114000	377000	90400
普及する	(両)	(両)	(自)	111000	40700	68200
発展する	(自)	(自)	(自)	63900	802	139000
加速する	(両)	(両)	(両)	70500	119000	69600
倒産する	(自)	(自)	(自)	22500	1540	7790
爆発する	(自)	(自)	(自)	62700	2740	32200

- ① (両) は自他同形であることを示す
 ② (他) は他動詞であることを示す
 ③ (自) は自動詞であることを示す
 ④ 数字の太字斜線は相対的に数値が高いことを示す

数値は「自動詞よりか他動詞よりか」「スル動詞かサセル動詞か」の2つの調査結果

